

成田剣道連盟だより

発行：成田剣道連盟 広報委員会

Tel：0476-42-6294

本年度下期も上期同様に、高段位への昇段者が多く、大変喜ばしく思います。地区連盟の大会結果および昇段審査の寄稿文を中心にご紹介いたします。

「成田剣道連盟月例稽古会」の近況

新年度が始まりましたが、1月14日に開催された月例会の初稽古についてご報告いたします。秋葉会長、米元名誉会長をはじめ約30名が参加した初稽古は、新年にふさわしい活気に満ち、皆様それぞれに良い汗を流されたことと思います。



秋葉会長からは新年にあたって冒頭、

「あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。本年の稽古始めは、施設の充実により、例年とは異なり暖房の整った道場で迎えることができました。皆さんが今年一年、怪我や病気もなく、健康で元気に稽古に励まれることを期待しております。また、剣道を通じて人間的にも一回り成長されることを心より願っております。」

といった激励のお言葉がありました。

成田剣道連盟を盛り上げるべく、今後も多数の方の参加をお待ちしています。



まずは、令和7年11月16日に開催された地区連盟対抗剣道優勝大会の報告から。

地区連盟対抗剣道優勝大会

令和7年11月16日、第73回地区連盟対抗剣道優勝大会が船橋アリーナにおいて開催されました。本大会は、各支部を代表する優秀かつ有力な選手がチームを編成して臨む団体戦であり、今年度も四部制（小学生・中学生・高校生・一般）で実施されました。成田剣道連盟からも各チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。

小学生の部では、夏の会長杯を勝ち抜いた選手の中からメンバーが選出され、一回戦で安房との対戦に臨みました。大将が勝てば代表戦にもつれ込む場面まで持ち込みましたが、惜しくも敗退となりました。初戦敗退という結果でしたが、会長杯以降、合同稽古や錬成会を重ねる中で、選手全員に成長が見られたものと思われま



チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	取得本数	勝敗	代表
成田	五喜田 旺馬	芝野 廉叶	若林 怜志	小高 葵	辻本 暁也	1	2	敗	
		ド メ							
				×					
安房	×	×	×		×	3	4	勝	
			▲						
	富田 夢叶	尾形 葉太	鈴木 咲翔	富田 匠人	近田 惺				

中学生の部は次鋒が女子、ほかは男子という構成となっていますが、小学生同様、会長杯を勝ち上がった選手がメンバーに選出されました。初戦は強豪浦安との対戦で、先鋒が二本負けした流れを止められず、0-4で敗退しました。浦安はそのまま勝ち上がり、優勝しました。



チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	取得本数	勝敗	代表
成田	重田 悠斗	網 優花	加藤 隆明	足立 清太郎	押田 優都	0	0	敗	
				▲					
浦安		×				4	7	勝	
	メ		メ		メ				
	ド		メ	コ	コ				
	工藤 瑞樹	鈴木 宥凜	立木 豪	箕輪 隼	松本 禮志				

高校生の部は、成田高校、佐倉東高校の生徒を中心にメンバーが生まれ、船橋と対戦しましたが、大将が勝ったものの、2-3で惜しくも初戦敗退となりました。



チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	取得本数	勝敗	代表
船橋	洞口 希和	堀内 りょう	石岡 大空	藤井 陽土	長澤 黎心	3	5	勝	
	メ	ド		メ					
	コ	メ							
成田						2	3	敗	
		メ	コ		メ				
	奥田 涼介	岸 侅那	横渡 龍飛	大野 凜柊	掛川 航太郎				

昨年3位となった一般の部は今年も期待されましたが、初戦の八千代戦は大將戦までもつれ込んだものの、惜しくも引き分けに終わり、こちらも残念ながら初戦敗退となりました。

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	取得本数	勝敗	代表
八千代	田邊 隆太	高井 和歩	山田 峻平	乾 裕貴	坂本 卓也	1	3	勝	
	▲	▲							
			メ ド		メ				
成田	×	×		×	×	0	1	敗	
					メ				
	本間 大雅	緒方 寧寧	大野 聖耶	山崎 孝	小松 梓				

今年は四部門とも初戦敗退となりましたが、選手はそれぞれ力を出し切ったの敗退となりました。今回の経験と課題を今後の稽古に生かし、さらなる成長と飛躍が期待されます。役員、選手、応援の皆様、大変お疲れ様でした。



最後に、前回の連盟日より発行以降今号までの間に六段、七段に合格された方々の寄稿文をご紹介します。今回も七段3名、六段4名と盛りだくさんです！

「剣道七段昇段を振り返って」

加良部剣道愛好会 都築 正亘

令和7年11月14日（東京）での七段審査会において昇段することができました。これまでご指導いただいた成田剣道連盟、加良部剣道愛好会の皆様に感謝申し上げます。このたび連盟日よりへの掲載という貴重な機会をいただいたので、昇段に至るまでのことを振り返りたいと思います。

まずは、自分の剣道歴についてですが、高校から剣道を初め、大学から20代後半ぐらいまでは、豆に剣道に取り組むことができ、五段までは順調に昇段することができました。転機は30代前半に六段に何度か挑戦した時です。これまでの剣道と同じ考えで審査に向かってもうまくいかず、大きな壁にぶつかり、剣道を本質から見直す機会になったことを覚えています。



そんな時期に仕事も忙しくなり、今から考えると言い訳にしかありませんが、剣道をする機会が少なくなり、剣道から離れる時期が長くなりました。

時が過ぎ60歳の定年が近くなることを実感すると、このまま剣道から離れていては後悔すると思い、一念発起し、加良部剣道愛好会に参加し剣道を再開することになりました。幸いにも加良部剣道愛好会の方々は、気持ちよく受け入れていただき、また切磋琢磨する雰囲気もあり、私に昇段への意欲を沸き立たせてくれました。そして、30年ぶりに六段に挑戦して合格をいただき、その後規則の改定による修業年限の配慮から3年後となるこの度の七段昇段に至ることができました。

昇段の要因

○加良部剣道愛好会での稽古

加良部剣道愛好会では、すり足、素振り、日本剣道型、基本稽古、地稽古等をしっかりと行います。また、審査が近づくと審査を想定した立ち合い稽古の中で1分30秒の審査時間をどう組み立てるかを学ぶことができました。

○成田剣道連盟の月例稽古

月例稽古会では、七段以上の先生方が元立ちとなり、充実した稽古ができ、的確なアドバイスをいただくことができました。様々な剣風の方々と稽古ができたことは、当日の審査相手への対応力を磨くことができました。

○「先の気位で攻め、技は後の先」の気持ちで、相手に対応できたこと

「先の気位で攻め、技は後の先」この言葉は、神奈川県剣道連盟の範士八段小林英雄先生の教えであり、たいへん感銘を受け、日頃の稽古で常に心掛けていました。審査当日も真の攻めから生ずる相手の変化に応じる動きが自然にできたことが功を奏しました。

以上、自分の思いつくままに記載してみました。今後、審査に挑戦する方々の何かの参考になれば幸いです。このたび七段に昇段することができましたが、これからも自分の理想とする剣道を目標に精進してまいりたいと思いますので今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

「七段昇段によせて」

成田剣友会 大塚 秀樹

(七段昇段によせて)

この度、令和7年11月の7段審査において合格することができました。今までお世話になりました全ての方々に感謝の気持ちで一杯です。

特に自身が所属する成田剣友会の先生先輩方、お仲間の方々には特段のご指導を賜りました。誠に有り難うございました。

審査対策は特にしたつもりはございません。地稽古の一人目の初太刀は審査を意識しました。それくらいです。

今後は、生涯継続できる剣道を目指したいと思っております。幸い、所属する成田剣友会には70歳、80歳を越されても精力的に稽古に取り組まれている先生方がたくさんいらっしゃいます。

私自身も後に続けるよう、より一層精進していく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。



「剣道七段審査合格」

千葉県立佐倉東高校 教諭 稲垣 翔

この度の剣道七段審査会におきまして、幸いにも合格をいただくことができました。身に余る光栄であると同時に、その重みを改めて感じております。

小学生の頃、成田剣友会にて剣道を始め、大先生方から剣道の基礎・基本を徹底して御指導いただき、中学時代には、宇佐見潤先生の熱意ある御指導のもと、剣道の厳しさと楽しさを学び、高校時代には、小林尚夫先生に剣道の技術はもとより、人として大切な在り方や心構えについて多くのことを学ばせていただきました。



大学時代には、時村尚孝先生より稽古を通して、剣を交えることで互いを理解し、敬い合うという「交剣知愛」の大切さを教えていただきました。

社会人になってからは、成田剣道連盟主催の月例稽古会に参加し、秋葉会長を中心に多くの先生方から御指導を頂きました。

このように、各年代において成田剣道連盟に所属する多くの先生方に御指導をいただき、温かくも厳しい御指導を賜ったことが、今回の七段合格につながったものと考えています。また、私が充実した剣道の日々を送れるのも、これまで御指導くださいました恩師の先生方、日頃より稽古をともしてくださる諸先生・先輩方、仲間、そして常に支えてくれた家族をはじめ、多くの方々の御支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

七段という段位は、決して到達点ではなく、あらためて剣道の奥深さと自らの未熟さを自覚し、さらなる研鑽を求められる段階であると感じています。今後も剣道修行の真髄を見失うことなく、日々の稽古を大切にしながら、後進の育成や剣道の普及・発展に微力ながら尽力してまいりたいと存じます。

今後とも変わらぬ御指導、御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以降は六段昇段の先生となります。

令和7年11月15日東京都八王子市にて行われた剣道六段審査会において、合格することができました。これもひとえに宝田錬武館飯田正雄館長はじめ諸先生方のご指導による賜物と感謝申し上げます。

私は高校生1年生の時から剣道を習い始めましたが初段取得後、途中リタイヤしてしまいました。社会人になってからは職場でも剣道をする機会があり、年に数回ほど稽古をするだけでした。その後、53歳となった時に職場で剣道をする環境下に置かれたこともあり、再び剣道を趣味として始めることとなりました。

年齢を重ねていくうちに、高校時代に剣道を途中リタイヤしてしまった事が頭の片隅にあり、後悔もあったことから、もう一度真剣に取り組んで見ようと決心しました。

以来、週2回から3回剣道の稽古を積み重ね順調に段位を上げることができました。

今から5年前、新型コロナウイルスという感染症の脅威にさらされ剣道の稽古もままならず、五段審査を迎えていた最中、職場の先輩からのお誘いにより、宝田錬武館で稽古を始めるようになりました。

宝田錬武館の稽古は土・日曜日の午前10時から約2時間稽古をしております。稽古内容は日本剣道形、基本稽古、地稽古が中心となり、月に2回から3回審査に向けた立会稽古を行っています。日本剣道形では立居振る舞い、相手との合気、間合、理合、刃筋を意識して稽古を行っています。基本稽古は面打、小手打、胴打、応じ技、かかり稽古を反復繰り返しています。地稽古では、どうしても打ちたいという気持ちがまさり、理合も関係なく自分勝手な剣道をしていました。常々飯田館長から「剣道は我慢だ」、「竹刀は刀である」、「無駄打ちはするな」と指導を受け修練を重ねてまいりました。

そして昨年65歳を迎え、全剣連の審査基準の改定により、65歳以上は受審期間が短縮となり、五段審査取得後4年で六段審査受審の機会を得ることとなりました。実は昨年8月に宮城県審査会で初めて六段審査を受審しましたが、初めての全国審査ということもあり、気負いすぎて全く自分の剣道をする事ができず、散々たる結果で悔いの残る審査となってしまいました。今思えば宮城審査では、「自分から攻めて、溜めて打つ」ということを忘れ自分の悪い癖が出てしまい相手に打たされていました。



宮城審査の後、自分の剣道をもう一度見つめ直し、基本稽古、地稽古に取り組みました。それともう一つ宮城審査失敗後、イメージトレーニングを取り入れ、立礼から蹲踞、蹲踞から一步前に出て気合、初太刀に至るまでの攻めと溜めを意識して実際の立ち合いをイメージした一人稽古を行いました。

そして11月15日東京審査を迎えることになりました。審査にあたり、審査会場には一時間前に到着するよう余裕をもって行動する。立会では「集中する」、「攻めて、捉えて、打ち切る」ことだけを考え挑みました。今回は2回目の受審ということもあり、前回よりは落ち着いて審査を迎えることができました。

一人目のお相手は私より身長が10センチほど高い180センチもある大柄な方でした。気位で負けないよう相手よりも大きな声で発生し、打ち切ることを意識し、合気になった時、思いっきり面を打ちましたが相手が勝り、初太刀はお相手の有効打突となりました。初太刀をとられてしまいましたが、不思議と焦る気持ちはなく、冷静に立会をすることができました。自分から先に攻めることを心掛け、一步前に攻めるとお相手が小手を打ってきたので無意識に体が反応し、小手抜き面が綺麗に決まりました。正に乾坤一擲の一撃となりました。お一人目のお相手とはその後お互い3本目、4本目とも有効打突なく終えました。

二人目のお相手に対しても自分から積極的に一步前に攻めることを意識しました。初太刀は自分から攻めるとお相手が居ついたのを感じ、「今だ」と思った瞬間思い切り面を打ち抜くことができました。二の太刀も自分のペースに持ち込むことができ、攻めるとお相手が面を打ってきたところ出鼻面で打ち抜けることができました。この時の心境は正直「もう早く終わってくれないかな」という気持ちでした。お相手の背中が審査員の方に向いていたので自分から少し右に体を移動し、審査員からよく見える立ち位置に構え、攻めと溜めを意識し、相手の起こりが見えたところで体が反応し面を打ち抜けていました。

審査を終えた時は前回の宮城審査と違い、自分の剣道を出し切ることができました。今回、私の立ち会った組は三人が合格するという結果となりました。

二回目の審査で六段に合格することができましたが、宝田錬武館飯田館長はじめ諸先生方に熱心にご指導を頂き、改めて感謝申し上げる次第です。

今振り返れば、今回合格できたのも宮城審査での失敗を反省し、稽古に励み、イメージトレーニングを積み重ねることで思いどおり自分の剣道ができたものと思います。これから全国審査を受審される剣友の皆様の一助になれば幸いです。今後は現状に甘んずることなく、更なる高みを目指して生涯剣道为目标に日々剣道の稽古に精進して行きたいと思います。

「ご指導いただきました各先生方に感謝」

直心剣友会 富 薫

このたび令和 7 年 11 月 15 日の審査会で六段の合格をいただきました。これも日頃ご指導いただいております直心剣友会の先生方のおかげです。心から感謝致します。

私は業務上接客が多く、コロナ期間中は全く稽古をすることが出来ませんでした。2024 年 4 月から再度稽古に参加させていただくにあたり 2025 年 11 月の審査会を目標にすることを決め、ジョギングとジムでの持久力と下半身強化に努めました。2025 年 4 月からは以前にご指導いただいた経験のある墨田区の東吾孺剣友会さんにも出稽古をお願いし、週 4 回の稽古機会を得ることが出来ました。



今までの私の稽古は勝手に打ち込み、理合いも練り合いも無い自分勝手な剣道でしたが六段審査に向けて稽古スタイルを変えることから始めました。今までは自分勝手に「行くぞ！行くぞ！」と気持ちで前傾姿勢になり稽古をしていましたが審査に向けて「腰を入れて自然体で構える」、「相手の構え、竹刀の角度、目の動きなど全身を見る」「打つべきところで打つ」「なぜ今、打ったのか」を考えながら稽古する、を徹底しましたが、なかなかうまくいきませんでした。

審査前の稽古終了時にご指導いただいている先生方が私に「審査の相手は普段あなたが稽古している私たちより強い人はいないから、落ち着いて立ち会えば大丈夫だよ」とおっしゃっていただき「その通りだ」と思った時から緊張がなくなり、審査立会いの 2 回とも相手の全身が見え、次の動きがすべて分かり対処でき合格をいただくことが出来ました。

これからはご指導いただいた先生方への恩返しのためにも、確かに六段だねとおっしゃっていただけるよう精進しもう一つ上を目指して鍛錬を積み重ねて行く所存です。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和7年11月15日東京六段審査会において、六段合格をいただきました。これもご指導いただきました米元先生をはじめ諸先生方のおかげです。心よりお礼申し上げます。

六段審査の準備として五段昇段後より成田剣道連盟だよりにある昇段された先生方の体験記を参考にさせていただきました。私自身、剣道は好きですが、誰よりも下手であることを自覚しております。また下手な人が上手くなるには、人一倍努力を重ねなければ難しい事も理解しています。



昨年一月に出稽古で参加させていただいている印西剣友会の新年会で、米元先生から「年始に当たり目標をたてること。目標達成するためには何かを犠牲にしなければ、簡単には手に入らない。」とのお話をうかがい、自分なりに審査に向けてやるべきことを考えました。「審査まで毎日素振りを欠かさず行うこと」「稽古はできる限り時間を捻出し、例え30分であっても数多くの稽古をする」ことを心がけました。併せて初めて剣を交える方との稽古を増やすため、千葉県月例稽古や東京、神奈川、静岡などへも出稽古に行きました。

その他審査前の事前準備として一か月前に審査当日と同じ時間に動き、電車の乗り換えや会場での着替え場所等の確認を行い、予定外のことがおきても慌てず対処できるようにしておきました。また審査時、蹲踞からの間合いの詰め方、攻め方、技の組み立てなどを、複数パターン考えて稽古で試しました。

審査当日は会場で近隣道場の先生とお会い出来たり、出稽古で剣を交えた方が同じ審査会場であったため、変に緊張することなく審査に望むことが出来ました。

審査の順番はBでしたが、一人目のAの方から挨拶を受け「お互いに合気になった剣道をしましょう。」と話しができたこと、審査相手の方の立ち合いを事前に見なかったことで余計なことを考えなかったことから、必要以上に緊張せず審査員の方に自分自身の今の剣道を見ていただいた点が良かったと思います。

22年のブランクがあって38歳で剣道を再開した際、全国審査がある六段合格を最大目標にしました。実際に六段合格をいただいても、自分がイメージしている六段の剣道にはほど遠いですし、これからが六段の修業の始まりだと思っています。今後も稽古に励み、もう一つ上の高みを目指したいと考えておりま

「剣道六段審査合格」

順天堂大学 佐々木 陽一朗

このたび、令和7年11月に東京で行われた審査会におきまして、六段に昇段することができました。日頃よりご指導いただいております成田剣道連盟の先生方をはじめ、関係各位に心より御礼申し上げます。

今回、初めての全国審査会での受審であり、不安を感じておりました。審査会当日も、これまでの審査会とは異なる独特の雰囲気の中で、緊張をしていたことを覚えております。しかし、面を着ける際にこれまでご指導いただいたことを思い返し、自分にできることを確実に実践しようと心がけました。立ち合いが始まってからは、雑念を捨て、目の前の相手に集中することに努めました。



これまでの自身の剣道を振り返ると、どうしても試合での勝敗を意識した剣道になっていたように思います。そのため、打たれたくない気持ちが先行し、打ち切れていない打突が多いことが課題であると感じておりました。

そこで、審査会に向けた稽古では、立ち合いの初めから気を充実させること、先をかけること、そして打突を最後まで打ち切ることを意識して取り組んできました。いずれも基本的なことではありますが、改めて基本を意識して稽古を重ねたことで、自身の剣道を見直す良い機会になったと感じております。当日もその点を意識して臨めたことが、今回の結果につながったのではないかと考えております。

また、普段は順天堂大学において学生との稽古が中心となるため、高段位の先生方に稽古をつけていただく機会は、成田剣道連盟の稽古会において得ております。改めて、多くの先生方にご指導いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

六段昇段は一つの節目ではありますが、まだまだ道半ばであると感じています。これからも剣道そのものをより深めていけるよう、稽古を積み重ね、精進してまいりたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

今回は多忙により寄稿には至りませんでした。下記の先生方も昇段されております。おめでとうございます。

六段：新藤 裕成、福田 いづみ、石川 雄瑛、原田 祐伴

編集後記

昨年度は六段に昇段し、加えて仕事をしながら大学院に通い、MBA を取得することもでき、個人的には大変忙しく、さまざまな意味で転換期となりました。

成田剣道連盟もまた転換期にあるのではないかと感じておりますが、今後も多くの関係者の力をお借りしながら、連盟の発展に貢献していければと考えております。

広報委員長：上田泰久、副委員長：花島弘樹、広報委員：堀部協